

「明治31年入植時から大正前半 油揚げと豆腐の話」

* 『ところ文庫18 常呂町の昔話2』から抜粋・編集

明治31年に岐阜県から移住・入植した藤橋ワキさん・久保田末乃さん・内藤タメさんの会話を编者／林不二夫さんがまとめたもの。会話には美濃弁が使われています。

当時の何よりのご馳走は油揚げだった。食用油は1年間に1升食べるかどうかわからないで、普段食べていけないので、法事でもあれば食べれるが、普段は天ぷら揚げたり肉を炊いたりしなかったから、なかなか口に入らなかった。お葬式があると、「ああ、天ぷらが食べられるな」と思った。

四角の油揚げを三角に切って、1枚はおひらにしてニンジンとゴボウを中に入れて、1枚はそのままお椀につけて食べ、とてもご馳走にみえた。

お豆腐だってお祭りが正月くらいしか買ったことはない。